

歸らちと思てみるとあんまり方々かけまわつたので上つて来た煙突がどこだかわからなくなつてしまひました。

泣きさうになるのをやつと堪へて三吉はさつきの風の神の處まで來ました。そして

『小父さん、僕お家へ歸る道がわからなくなつたんですが後生ですからをしへて下さい』とたのみました。風の神は『やあ、いたづら小僧、とう／＼弱つたな、よしよし小父さんが歸らしてやらう。雲の中で一番低く行かれるものは

雨雲だ、そらあのねづみ色をしてゐるんだ、今小父さんがあれを呼んであげるから、お家まで送ておもらひ』と言てピーと口笛を吹きますと向の方からねづみ色の雲がかたまつて來ました。

三吉は大喜びで『小父さん、どうも有難う、さようなら』と言て元氣よく雨雲に乗り、自分のお家の屋根まで送てもらつて歸りました。(をはり)

## 泰西名家幼稚園觀

記 者 譯

— Charles W. Elliot.

幼稚園の基礎的觀念は、即ち學校の總ての階段に於て必要なものと同じものである。

幼稚園に於ける最上の方針及實際は、子供が何か爲る事に依て物を學ぶ事と、彼等が學びつゝあると同時に楽しんで居るといふ事である。そしてそれが爲彼等は興味を持ち同時によりよく學ぶ事が出来るのは幸福である。

舊い見界では、學校に於ては、子供に嫌はれ、苦痛とせられ、望ましくないと思はれる過程でなければ、其以外には眞の、或は價值ある教訓は無いとせられてゐる。教育に於ける此の恐ろしい過誤に對して幼稚園は充分満足ある成巧を來し

た。

長いあいだ、規則立た教育は、若し其れが免れ得ぬものとするならば、それは人生の自然的な快樂に干涉する處の防害、反抗さるべき敵對制度、忍耐を要する苦難であると、青年に依て考へられてゐる。

幼稚園は此の青年の心の中の毒に對して、よい解毒藥を持ち來したのである。

幼稚園の主旨「爲る事の喜び」は、すべての教育の主旨、主張であるべく、又人生のどの場面にも獎勵をあたへる幸福な主旨である。

—Kate Douglas Wiggin.

人生及び教育の理論に於て幼稚園の學習及實際は（私が非常に若年であつた頃に）私に、生活すべきそして其に依て働くべきある理想を興へた。そして其理想は決して消えず衰へもしなかつた。

富める時にも貧しき時にも不遇の時にも幸福の時にも病氣の時にも健康の時にも、善い時にも悪い時にも、かの少年時代の、牧場や小川、林や地上、あらゆる、あたりまへの事物の「天國の光」のような其のきらめきは、決して完全に失はれず又困難な境遇の時でさへも、夢想の榮光とある活氣を生ぜしむる、考と思ひとをよく保てゐた。

—Hamilton Wright Mabie

幼稚園は其校舎の壁四方の中にとどこもる事は出来ない。更に歩を進めて兒童の背後へ、その母親の許へまで行き、校

舎の中と同じ理想を其の家庭にまでも及ぼさなければならぬ。而して眞の幼稚園教育者の心は、幼稚園の室で幼児と對してゐる時でも、なほその兒の父母といふ事も念頭においてゐる。眞の幼稚園教育者は、教室の背後には家庭のある事をそして一人の兒童をさとり時には其兒の母の教育を忘れてはいけない。ことに裏長屋にある幼稚園は單に表面上の教育に止まらず實に文化の源となるべきである。上品な生活に於ける最初の課業は、兒童を教育する事のみではなく、其區域一般に亘て、種々の場合に事よせて幼稚園の感化を、其の社會全體に及ぼさなければならぬ。

—Lyman Abbott.

幼稚園は、小兒の庭であり家庭と學校は上である。

わるい習慣は雜草であつて父母と教師は園丁である。

教育は下ごしらへをし土を肥し種を蒔きそして苗木の雜草を取る。幼稚園の遊戲や歌は園藝用具である。たのしい氣持おもしろい氣持、親切な心、同情等はなくてはならない日光のかゞやきであり、悲しび、試み、鍛練、涙、そして守らなければならぬ規定、などはなくてはならぬ雨のうるほみである。

どの家庭もどの學校も、小兒の庭でなければならぬ。そして其の生徒達は決して卒業するといふ事はない。小學校高等小學校大學校、それらはみんな、少年青年の成長すべき小兒の庭であつて、彼等が最も自分にふさはしい花をひらき實を結ぶように、自然に單純にそして健康で育つようにと奨勵する。

—Frank Mercury.

幼稚園は、最近三十年間にわたつておどろくほど莫大な良い感化を小學校へ及ぼした。

其の間小學校は、靜かに幼稚園の立場の方へと變化して來た。幼稚園にはある大きな缺點があるにもかゝらず、大體兒童の個人性、主旨の發展、豊富な身體的活動に就て準備をして來た。小學校は、幼稚園の刺戟に依て、この種々な要素を益々接近せしめ、今では、幼稚園と小學校とは、多くの方法に於て容易しく區別する事の出來ない迄に成て來た。即ち二者は同じ根底の上に立て居る。私は之等凡ての過程に於て小學校が幼稚園に負ふ處、非常に大なるを思ふのである。

—Paul Barnes.

米國主義は全く教育の結果である。

一人／＼の人は、大洋の定期船で來たのだらうと、大島の背に乗て來たのだらうと何れにしても、その人が北米合衆國の良市民となるならば米國家化されなければならぬ。我々の公立學校は此の目的の下に建てはじめられたものである。學校組織のいづれの部分よりも、よく此の仕事を爲たのは幼稚園である。若し或人が良い幼稚園を熱心に一時間、見て居れば必ずそこには少さい市民を見出し、そしてその室内には民主的な群りを見出すに違ひない。

そして同じ分子が兒童成長の後に、世界の國民に、北米のオハヨー、アクロンの、良市民に、ならせる。

—James Rowland Angell.

米國に於ける幼稚園の歴史は、其指導者の教育上の聰明と博愛精神との大なる名與を示してゐる。

幼稚園は、其適應性と効果を與へんとして、米國兒童の特質と、公立學校の規定とに、順應さして來た。私は、幼稚園の持ち來した多くの實行と精神とを小學校に同化した、古い米國の企に、對して大なる尊敬を表するものである。